



熊本市 感染症発生動向調査 速報



●インフルエンザがちらほら…?!

冬の感染症と思われがちなインフルエンザですが、現在も市内で患者の報告があり、少数ですが高齢者施設、デイサービスなどでの集団発生や、小学校での学級閉鎖もみられます。昨年は、流行が終わったあとも1年を通してインフルエンザ患者の報告がありました。特に人が多く集まる施設などでは、時期を問わず、集団発生が起きる可能性があります。注意が必要です。

また、個人差はありますが、ワクチンの効果が続くのは5ヶ月程度とされています。冬に予防接種をされた方も、現在、ワクチンの効果が切れはじめる時期に入っています。

●インフルエンザとは？

インフルエンザウイルスによる呼吸器感染症です。一般の「かぜ症候群」と比べて全身症状が強く出やすいことと、重症化しやすいことから注意が必要です。(特に高齢者、乳幼児、基礎疾患のある人)

◆どんな病気？

・症状………突然の38℃以上の高熱、全身のだるさ、頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状に続いて、呼吸器症状(鼻水、咳、のどの痛みなど)が現れます。消化器症状(腹痛、嘔吐、下痢など)がみられることもあります

・潜伏期間…1~3日間

・感染経路…患者の咳などのしぶきを吸い込むことによる飛沫感染が主ですが、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染もあります。

◆かかったらどうすればいいの？

・症状に応じた対症療法ほかに、オセルタミビル(タミフル)、ザナミビル(リレンザ)などの抗インフルエンザ薬を使用する場合があります。解熱剤(特にアスピリン)は、ライ症候群(急性脳症と肝臓障害)との関連があるとされており、小児への使用は原則禁忌となっています。解熱剤がどうしても必要な場合は、アセトアミノフェンを使用しましょう。

◆予防法は？

・手洗い、咳エチケットなどの一般的な予防方法をしっかり行いましょう。



期 間		平成30年 25週		平成30年 26週	
		6/18~6/24		6/25~7/1 (最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	11	0.44
RSウイルス感染症		0	0.00	1	0.06
咽頭結膜熱(プール熱)		7	0.44	8	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		37	2.31	40	2.50
感染性胃腸炎		141	8.81	96	6.00
水痘(みずぼうそう)		3	0.19	5	0.31
手足口病		91	5.69	78	4.88
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	1	0.06
突発性発しん		8	0.50	9	0.56
ヘルパンギーナ		2	0.13	8	0.50
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		1	0.06	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	1	0.20
流行性角結膜炎(はやり目)		15	3.00	16	3.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
無菌性髄膜炎		1	0.20	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		1	0.20	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00